

株式会社アートネイチャー

生産拠点フィリピンへは本社主導
販売拠点中国では現地主導の柔軟対応

POINT

- ・フィリピン工場から本社サーバーへシンクライアントでアクセス
- ・中国拠点は現地主導で財務会計・販売管理システムを導入
- ・セキュリティ対策として中国国内と中国・日本間の回線を分離

COMPANY PROFILE

本 社：東京都渋谷区
設 立：1997年
資 本 金：30億33万円 (2012年6月)
売 上 高：318億1300万円 (2012年3月、連結)
従業員数：2358名 (2012年9月、連結)
事業内容：各種家電製品の販売・販売、育毛サービスの提供、
ヘアケア商品の販売
<http://www.artnatura.com/jp/>



村田勝也 氏
代表取締役社長
兼 情報システム部長
兼 情報システム部長

安永 洋兵 氏
取締役システム部長
システム企画グループ
次長

白井 弦弘 氏
アートネイチャー上海
情報本部副部長
兼 情報システム部長

生産の本拠地

フィリピンへは本社主導の導入

トータルヘア・サポートを掲げ、かつらやウィッグ、増毛・育毛サービスや各種ヘアケア製品などを提供するアートネイチャー。最近では男性向けだけでなく、ファッション感覚でウィッグやエクステーションを求める女性向け商品の販売が大きく伸びている。

同社の海外戦略は生産拠点としてのフィリピンと、販売拠点である中国の2軸で展開されており、前者のIT対応は本社主導、後者は現地主導とシステム対応は異なるその経緯を詳しく見てみよう。

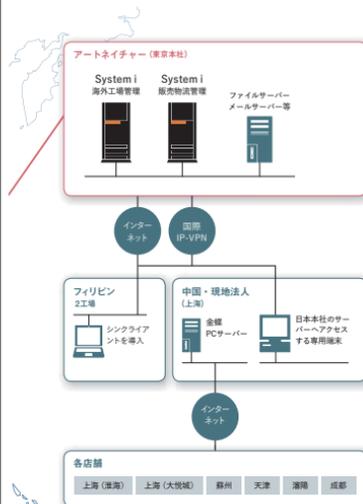
現在、同社製品の大半はフィリピンで生産されている。以前は現地の協力工場に委託生産していたが、2002年に現地企業へのユーザーケアシステムズ社を、2004年にピコルユーエーエクスポートコーポレーションを子

会社化。

2006年には両社を統合し、完全子会社としてアートネイチャーフィリピン (ANPD) へ社名変更した。さらに2009年には、アートネイチャーマニファクチャリングフィリピン社 (ANMP) を設立し、新工場が操業を開始している。

これに伴い、海外工場向けの生産管理システムが稼働したのは2007年。同社は本社に導入したSystem i上で販売物流管理システムを運用しているが、もう1台のSystem iを導入し、海外工場向けの生産管理システムを自社開発した。フィリピン現地で使用する端末にはシンクライアントを採用、日本国内で調達し、フィリピンへ輸出する形で全て手配した。当初はインターネット経由であったが、パフォーマンスを確保できなかったため、今はストリップスの画面転送ツールを利用している。

「フィリピンの現地子会社にはIT人員を確保できない



ことや、生産管理の手法やプロセスは日本のノウハウをベースにしているので、本社主導でIT導入を進め、国内サーバーへアクセスするようにしました。シンクライアントの採用も、レスポンス確保に加え、現地でのサポート負荷を可能な限り軽減するためです」と語るのは、安永洋次長 (情報システム部システム企画グループ) である。

現在、同社ではオーダーデータとともに頭部の3D画像データをフィリピンに送信し、生産の効率化に役立っている。またこうしたデータの活用は、工場の稼働状況に応じて2工場のどちらで生産するかといった分業体制の効率化にも寄与しているという。

販売拠点を展開する中国では
現地主導のIT導入

一方、巨大な消費地である中国市場をターゲットに、

女性向けのウィッグやエクステーションの販売を開始したのは2010年6月。日系百貨店などを中心に段階的に出店数を増やし、2011年1月には現地法人を設立した。現在は蘇州・天津・瀋陽・成都の各都市と上海2店の合計6店舗を出店する。

中国でのIT導入には本社は関与せず、全て現地主導で進められた。現地法人の副総経理である白井弦氏は、日本でシステム部門に在籍した経験を活かし、現地でIT導入を担当している。

「現地の在庫管理方法に課題があったため、在庫管理機能を中心にシステム製品を選定しました。財務担当の中国人スタッフと相談しながら、中国でシェアの高い販売管理・財務会計システム「金蝶」の採用を決めました」(白井氏)

金蝶の導入をはじめ、稼働するWindowsサーバーやPCクライアント、ネットワーク機器の導入・構築などは、日本でのシステム導入を支援するJBCCの紹介で、同社の中国現地法人であり、上海に拠点があるJBCNに全て依頼した。アートネイチャー側は白井氏、JBCN側は営業担当の日本人と、中国人および日本人のSE2名がプロジェクトに加わった。

中国国内の各店舗から金蝶が稼働するサーバーへはインターネット経由で接続する。ただしこのサーバーは、日本本社にあるいずれのサーバーとも接続していない。中国国内の独立したシステム環境として稼働している。

日本本社のサーバーへ接続する場合は専用の端末を用意し、必要な会計データなどは都度、その端末から国際IP-VPN経由で日本へ転送する。このほか、メールなどの受信やプレゼン会議などもこの回線を使用している。中国国内と中国・日本間の回線を物理的に分離することで、セキュリティ対策を考慮したよう。

中国での店舗展開はスモールスタートで、中国市場でのヘアケアへの需要を見極めながら、ほかのアジア地域への展開も含め、柔軟に対応していく予定だ。IT導入も同様に、現地で必要体制や現地企業、業務システムの性格などを考えながら、その都度どのような体制で進めるかを柔軟に考えていきたいと思っています」と、村田勝也は上席執行役員 (管理本部副部長 兼 情報システム部長) は、同社の海外IT戦略について語っている。